

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

岩手県 山田町

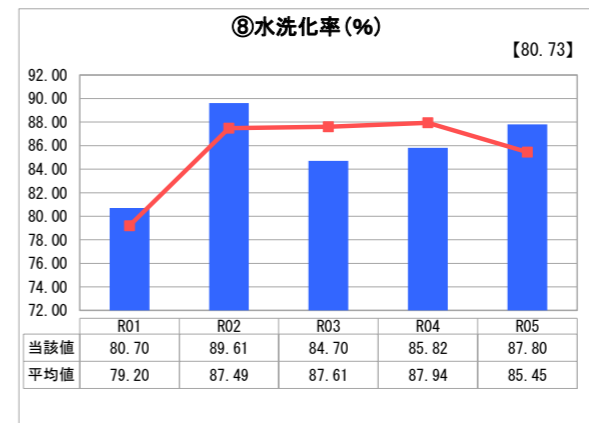
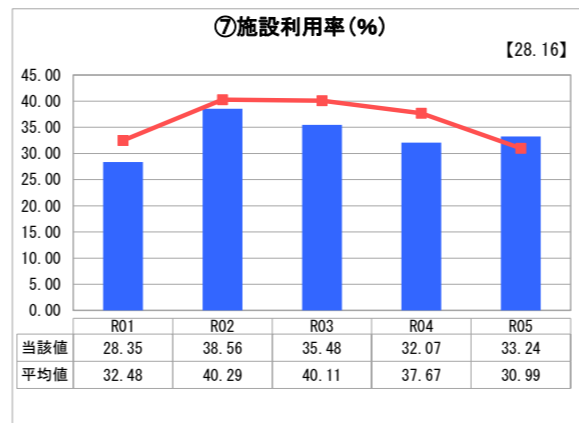
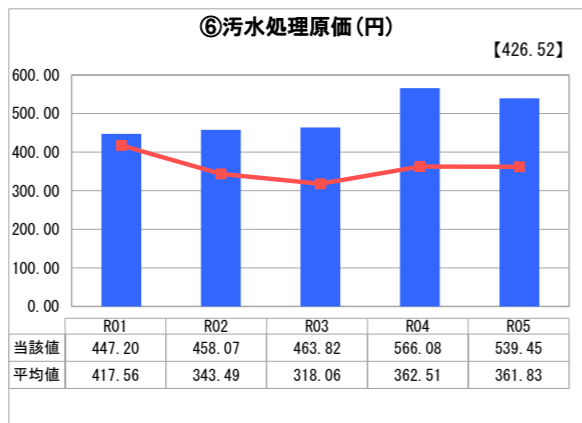
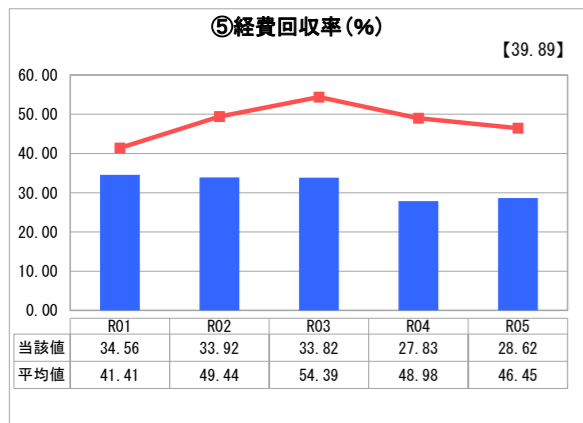
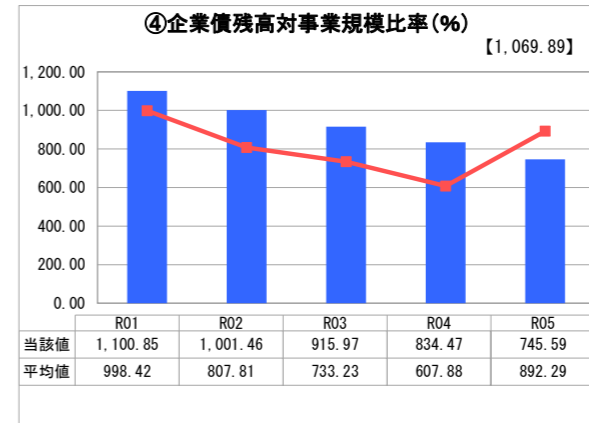
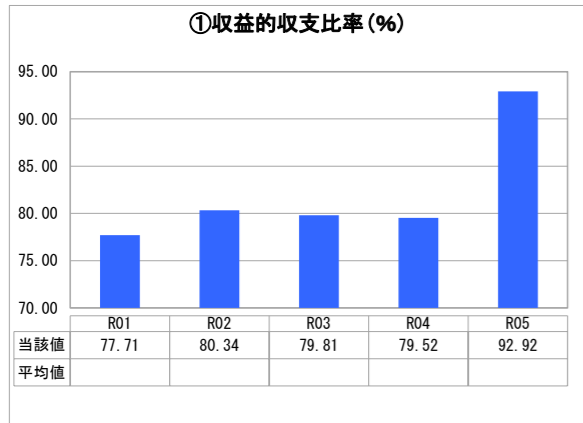
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	漁業集落排水	H1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	14.27	98.29	2,879

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
14,240	262.81	54.18
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
2,008	1.10	1,825.45

**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率  
令和5年度に13%改善しているが、公営企業会計移行のための準備金による繰入金の一時的な増加によるものであり、実質的な収支は令和4年度と同程度と考えられることから、使用料収入の向上を図るなど、経営改善が必要である。

④企業債残高対事業規模比率  
管渠整備が完了していることから年々改善傾向が見られるが、令和6年度以降処理施設の機能保全工事が始まることから、企業債残高は再び増加に転じるものと見込まれる。

⑤経費回収率  
維持管理費等の増加から徐々に悪化傾向にあり、使用料改定など経費回収率の向上に努める必要がある。

⑥汚水処理原価  
令和4年度に物価高騰や施設老朽化に伴う維持管理費の増加により上昇傾向にある。処理場の突発的な不具合を防止するため、機能保全を実施していく必要がある。

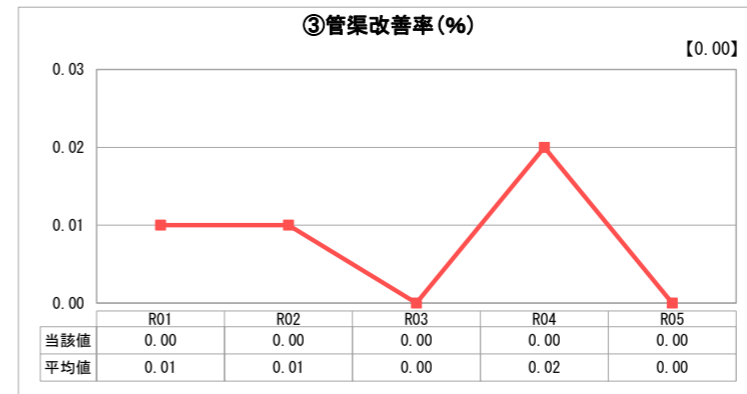
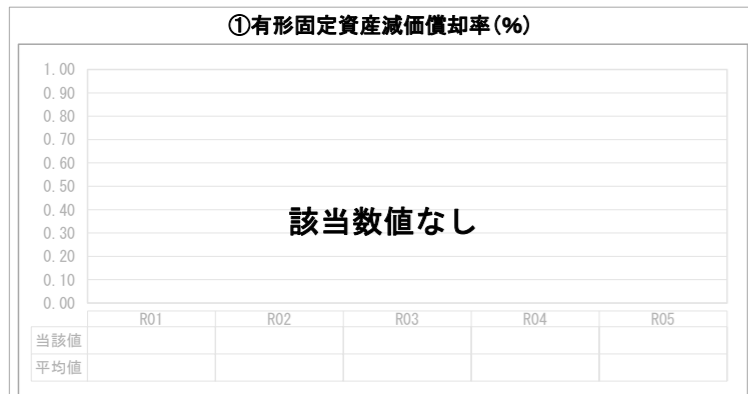
⑦施設利用率  
汚水処理人口の減少により、低率な状況が続いている。一方で接続率については9割を超えており、利用率の劇的な向上は見込まれないことから、処理人口に見合った効率的な汚水処理方法を検討していく必要がある。

⑧水洗化率  
徐々に増加傾向にあり、下水道イベントの実施など引き続き下水道事業の周知を図り水洗化率の向上に努めていく。

### 2. 老朽化の状況について

管渠については耐用命数に達していないものの、雨天時に不明水の流入が見られることから、管路調査を実施するなど状況を注視していく。処理場設備については、一部東日本震災後の機能強化事業により更新しているが、老朽化により不具合が発生している設備も見られることから、機能保全により予防整備を実施していく。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

漁業集落排水処理事業については、供用開始から20~30年経過し、管渠及び処理施設の経年劣化による維持管理費が増加する一方、人口減少に伴う収益悪化により経営状況が悪化してきている。このことから将来を見据え、処理区の統廃合や処理方式の見直しなど、汚水処理方法の抜本的な見直しを検討していく必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。